

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1110
施設名	東進ポップキッズ大塚キャンパス
施設所在地	豊島区北大塚3-31-3
法人名	社会福祉法人東進

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表 現

<テーマの設定理由>

当園では、自分の思いや感情、頭の中にあるイメージを言葉や身体を使って表現したり、自分とは違う「何か」になりきったりする体験をととても大切にしています。幼児クラスは、毎学期末に歌やダンス、劇遊びなどの発表会を行い、保護者と園とが子どもの成長の喜びや感動を共有し、年長組は、地域の施設や職業体験施設などへの園外保育も実施していることから、「表現」をテーマとして設定しました。日頃から詩や歌、ダンス、なりきりごっこ遊びなどを意欲的に楽しんでいる子どもたちの「表現」に対する興味・関心と自信をさらに高めるために、古今東西のいろいろな歌やダンス、演劇、職業にふれる活動を考えました。

2. 活動スケジュール

8月～2月：絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、動画の視聴
10月：縦割りグループでの商品制作、地域のカフェでのお仕事体験（年長組）
11月：縦割りグループでの商品制作、お店やさんごっこの行事での売り買い体験
1月：ダンス・言葉遊び・音楽遊びのカリキュラムでの取り組み
劇場でのミュージカル観劇体験
2月：ダンス・言葉遊び・音楽遊びのカリキュラムでの取り組み
園のステージでの発表体験
3月：職業体験型テーマパーク「キッザニア東京」での職業体験（年長組）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・電子黒板
- ・商品制作用の廃材、制作用具
- ・カフェでの店員体験用のエプロン、三角巾
- ・絵本、エプロンシアター、動画教材、過去の園児の発表会の動画
- ・ミュージカル観劇チケット、送迎バス
- ・劇の台本、衣装、小道具、大道具、背景、音響機器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「どうしたら〇〇みたいに見えるかな?」「どんなふうに表現してみたい?」という子どもたちの興味・関心をもとに、ダンス、言葉遊び、音楽遊び、絵画制作などのカリキュラムに加え、お店やさんごっこや劇遊び、発表会、外部施設での職業体験を行いました。

電子黒板での動画視聴や絵本の読み聞かせ、エプロンシアターを行い、職業や演劇に対するイメージを膨らませました。お店やさんごっこは、年少組から年長組までの縦割りグループで活動しました。店舗の種類や商品、店名などを子どもたち自身で話し合いながら決め、制作を進めました。完成した商品を売り買いする行事当日は、各店舗のコスチュームを着て、接客、販売を子どもたちが主体的に行いました。年長組は、3月に「キzzaニア東京」での職業体験を行いました。

劇遊びは、言葉遊びのカリキュラムでセリフの読み合わせをしたり、ダンスや音楽遊びのカリキュラムで歌詞や場面の意味を考えながら歌ったり踊ったりしました。年長組は、1月に劇団四季のミュージカル「ライオンキング」を観劇しました。2月には、園のステージでの発表体験を行い、保護者の方にも一年間の表現活動の成果としてご覧いただきました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

お店やさんごっこでは、はじめに、「自分の家の周りには、どんなお店があるかな」と問いかけると、子どもたちは次々と活発にいろいろな意見を出し合いました。制作する商品や店名を話し合うときにも、子どもたち同士で積極的に意見を出し合う姿が見られました。話がまとまらないときには、保育者が最小限の仲介をして意見をまとめていきました。

希望する店の担当になれなかった子がいると、「私、〇〇屋さんに替わってもいいよ」と申し出てくれた子がいました。替わってくれた子には、周囲の子どもたちも自然と「ありがとう」と感謝の言葉を伝えていました。

商品の制作や店舗の準備を縦割りグループで行うときには、年長組が年下の子を迎えに行ったり、商品の作り方を教えたりしていました。「いらっしゃいませ」という店員の挨拶を伝えると、はじめは照れていましたが、慣れてくると店員になりきって、大きな声で積極的に呼び込みや商品の説明をしていました。合計販売額を集計して、売り上げ1位の店舗を発表すると、結果を喜んだり悔しがったりする姿が見られました。

劇遊びでは、年長組はミュージカル観劇後から「ライオンキング」をみんなで演じたいという気持ちがクラス全体でとても大きくなりました。自分になりたい役を頻繁に口にし、役になりきって真剣にセリフや動きに向き合い、細かな動きまで実際に観たミュージカルの動きを取り入れようとする姿が見られました。

年中組は、アニメや絵本などで子どもたちに親しみのある「トイストーリー」を題材にし、いろいろなキャラクターになりきって演じました。本物そっくりの衣装を用意すると、子どもたちは大喜びし、衣装を着ると「おもちゃ」になりきっていました。

年少組は、子どもたちが大好きな絵本「三匹のこぶた」のこぶたになりきって劇遊びを楽しみました。家を作る場面のセリフは、子どもたちが自由に考え、劇遊びのたびに会話の内容が異なり、想像力の豊かさを感じました。年長組の劇のセリフを言い合う姿も見られ、子どもたちの記憶力の高さや、表現活動への興味・関心の広がりを実感しました。

各クラスにおいて、自分が希望していた役になれなかった子もいましたが、保育者がどの役も必要な存在だということと、それぞれの役の見せ場があることを伝えると納得し、自分の役を楽しみながら演じていました。発表会当日は、緊張感よりも大勢の人に見てもらうことを楽しみにする気持ちが強く、子どもたちは自信を持って発表を楽しむ姿を見せ、保育者も安心してその姿を見守ることができました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

実際にミュージカルを観劇したり、本格的な衣装や小道具、大道具などを用意したりしたことで、子どもたちの劇遊びへの興味・関心と意欲、主体性が飛躍的に高まる姿が見られました。「本物にふれる体験」と「実物を提供すること」の教育的な意義と必要性を改めて深く実感しました。

キッズニアでは、滞在時間の中で体験できる職業の数に限りがありましたが、子どもたち同士が自ら話し合いながら体験する職業を選ぶ姿が見られ、協調性や判断力の成長を感じることができました。

希望する役や職業を体験できなかった子もいましたが、その役や職業の役割や必要性を理解し、自分の希望とは異なる役割であっても、与えられた環境の中で全力で楽しもうとする姿が随所に見られました。こうした姿からは、子どもたちの柔軟性や状況に応じて気持ちを切り替える力が着実に育まれていることを実感し、保育者に大きな喜びと気づきをもたらしてくれました。